

十勝岳周辺の温泉の成分変化*

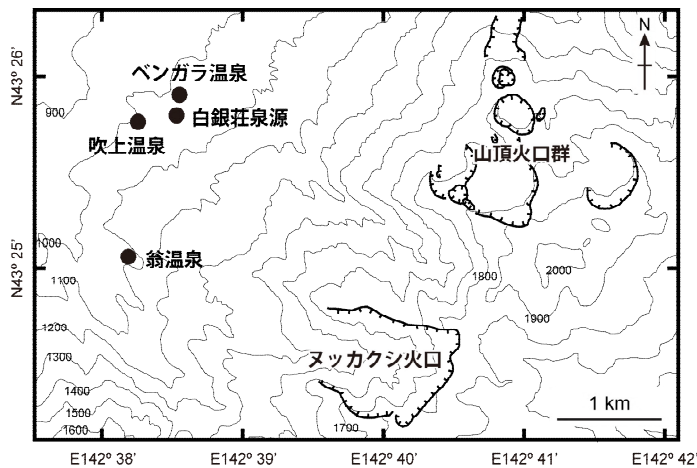
Chemical Changes of Thermal Waters around Tokachidake Volcano

(地独)北海道立総合研究機構 地質研究所

Geological Survey of Hokkaido, HRO

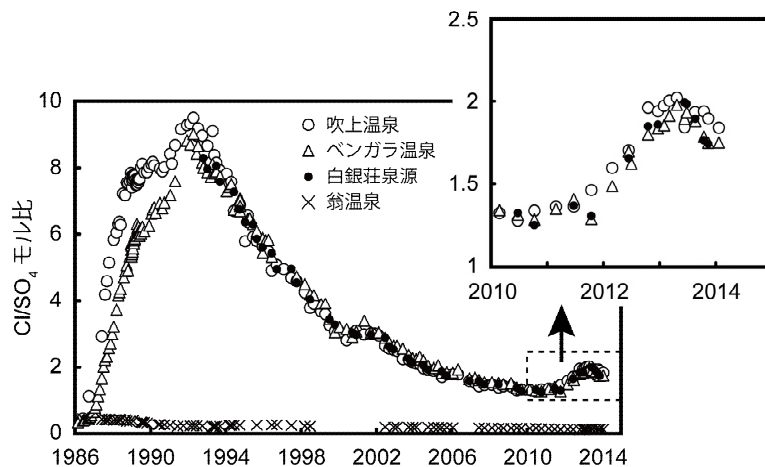
十勝岳の山頂火口群から約3km 西麓にはベンガラ温泉、白銀荘泉源および吹上温泉が、それらの約1km 南には翁温泉が位置している(第1図)。北海道立総合研究機構地質研究所では、これらの温泉の成分を1986年から継続的に分析し、地球化学的な火山活動モニタリングを行っている。ここでは、2014年1月までの温泉の成分(Cl/SO₄モル比)の時間変化を示す。

ベンガラ温泉と吹上温泉におけるCl/SO₄モル比は1988-89年噴火を挟んで急激に上昇し、1992年に低下に転じた(第2図)。白銀荘泉源では、分析を開始した1992年以降はベンガラ温泉や吹上温泉と同様にCl/SO₄モル比が低下する傾向を示した。これらの3つの温泉のCl/SO₄モル比は、2012年に上昇傾向へと転じたが、2013年4月以降は横ばい~やや低下の傾向を示している。一方、翁温泉のCl/SO₄モル比には、1986年から大きな変化はない。



第1図 十勝岳周辺の温泉試料採取地点

Fig.1 Location map of hot springs around Tokachidake volcano.



第2図 十勝岳周辺の温泉のCl/SO₄モル比の時間変化

Fig.2 Temporal change of the Cl/SO₄ molar ratio of thermal waters around Tokachidake volcano.

* 2014年3月18日受付